

# 日本物理学会・男女共同参画推進委員会活動

森 初果

日本物理学会、東京大学物性研究所



## 男女共同参画推進委員会の設立

2002年4月 パリで、IUPAP 国際会議において “Women in Physics”が開催。

2002年7月 男女共同参画推進委員会が設立。

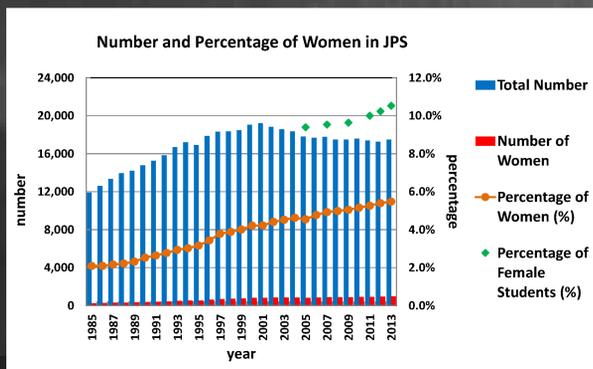
日本物理学会の男女共同参画推進委員会は、パリ会議の直後に設立された。

## 男女共同推進委員会の目標

- (1) 男女共同参画について意義の議論から活動へ
- (2) 女性研究者を含めた次世代人材の育成
- (3) 実態調査と環境整備。

## i. 日本における物理学研究者数

日本物理学会 (JPS) の全会員数はこの7、8年一定であるのに対して、女性研究者比率は、28年前の2%から留まることなく緩やかに上昇して、現在約5.5%となり、女子学生比率も10.5%と増加している (図1)。しかしながら、理工系が目標とする30%にはまだ遠い状況である。今後さらに、多くの女性研究者が活躍し、多彩な人材により、物理学がますます発展するよう、2002年に発足した男女共同参画推進委員会が行っている活動を紹介する。

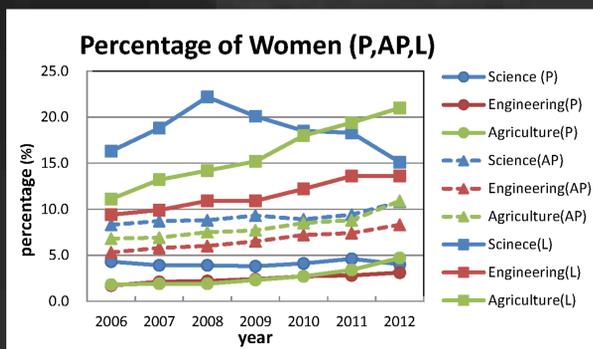


## cf. アカデミックポジションにおける女性比率

(2006 - 2012)

近年のポジティブアクションの取り組みにより、農学部や工学部では増加しているが、理学部では減少の傾向にある。

P: 教授  
AP: 准教授  
L: 講師



## ii. 他学会との交流

応用物理学会、日本化学会、日本物理学会などが中心となって理工学系学協会に呼びかけ、2002年7月19日に男女共同参画学協会連絡会準備会を開催して、12学協会、計29名の参加の下、男女共同参画学協会連絡会を発足した。

2012年11月に実施された第3回のアンケート調査で、1600名の物理学会会員が回答した。第2回のアンケートについても、動物学会と生物物理学会と共同で、ワークライフバランスについて解析を行い、興味深い結果を得ている (江尻晶)。また、連絡会会議への参加 (小形正男、江尻晶)し、2012年度連絡会シンポジウムでも、女性リーダーの育成 (田島節子)、男女共同参画の取り組みの成果と今後の展望 (江尻晶)、キャリア形成のためのコツは何か? (笹尾真実子)、パネル討論I: 男女共同参画学協会連絡会10周年記念 (阪東昌子)で講演を行った。

## iii. 国際交流

2013年7月14-19日に幕張で開かれた第12回アジア太平洋物理学会 (APPC12)の5日目、18日 (木)の午後、国際ワークショップWomen in Physicsを開催した。10カ国55名が参加し、「ポジティブアクション」と「ネットワーキング」について活発な情報、意見交換を行った (永宮正治、笹尾真実子、森 初果)



国際ワークショップを開催 (APPC12での Women in Physics)



(APPC12での Women in Physics)

## iv. 次世代教育—女子中高生夏の学校

国際交流で、韓国の物理学会が高校生サイエンスキャンプを行っているのに刺激を受け、物理学会の鳥養らの提案により、2005年に「女子中高生夏の学校」がスタートしてから今年で9年目となる。物理学会も、2013年度、実験「大気を測ろう」、ポスター「不思議な原子核の世界」、演示実験「超伝導で磁気浮上」、女子中高生と留学生の国際交流を行った。(興治文子、小田原厚子、鳥養映子、中山敦子、長谷川修司、森初果、湯浅富久子、龍田、岩村)



## 女子中高生夏の学校2013: “大気を測ろう”



海外留学生との国際交流

## v. 物理学会年会シンポジウム

毎年春の日本物理学会年次大会で、シンポジウムを企画して討論している。

- (1) 2010年度: 「ポジティブ・アクション—加速する女性研究者育成事業と今後の展望—」
- (2) 2011年度: 「物理研究者のワークライフバランス」
- (3) 2013年度は、「ダイバーシティー (多様性) と物理」というテーマで、「男女共同参画におけるダイバーシティー (上瀧恵里子)」、「国際化におけるダイバーシティー (フラナガン・ジョン)」、「学問におけるダイバーシティー (福山秀敏)」について、講演をいただき、パネルディスカッションを行った。



2013年広島における年会での、口頭発表とパネルディスカッション。

## vi. 広報

日本物理学会誌 (嘉規香織) とHP (<http://k2.sci.u-toyama.ac.jp/triangle/index.html> 栗本 猛) に、活動内容を掲載した。

